

Mastermind LT

User's Manual - Ver 4.1



RJM Music Technology, Inc

日本国内輸入代理店

株式会社ミュゼット・ジャパン / Musette Japan Co.,Ltd.

〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-16-7 第二小林ビル B1

はじめに	3
フロントパネル	4
フロントパネルのコントロール	4
メインディスプレイ	5
リアパネル	6
リアパネルの接続端子	6
基本的な操作	7
プリセットモード	7
IAページ	7
プリセットのストア	7
MIDIとプリセットの設定	8
セットアップモードの起動	8
デバイスの登録	8
プリセット毎のプログラムチェンジナンバー設定	10
Song/Setlistモード	11
ソングのエディット	12
セットリストのエディット	12
セットリストモードの起動	12
ボタンページのエディット	13
Button Page - ボタンページのタイプ一覧	14
CCs and CC+FnSwタイプ	14
Device PCタイプ	15
Notesタイプ	15
Presetタイプ	15
エクスペッションペダル	16
エクスペッションペダルの設定	17
エクスペッションペダルのポジションスイッチの設定	17
エクスターナルスイッチについて	18
リモートモード	18
外部MIDIコントロールを使用する	19
Setlist=None	19
Setlist active Bank=Song On	19
Setlist active Bank=Song Off	19
MIDI CCを用いたスイッチコントロール	19
その他の特徴	20
ファンクションスイッチ - 本機を使ったアンプのCh.スイッチング -	20
グローバルプリセット	20
タップテンポとMIDIクロック	20
オートタップ	21
USBフラッシュドライブの読み込み、保存	22
USBフラッシュドライブから設定をロードする	22
USBフラッシュドライブに設定をセーブする	23
本機とコンピュータとの接続	23
Mastermind Editor	23
ファームウェアアップデート	24
Setup Mode Reference セットアップモードリファレンス	25
本機の文字入力時のフットスイッチの動きについて	25
Main Menu メインメニュー	26
Device Menu デバイスメニュー	28
Preset Menu プリセットメニュー	29
Fn Switch Settings ファンクションスイッチセッティング	30
MIDI Settings MIDIセッティング	31
System Functions Menu システムファンクションメニュー	31
Expression Pedal Menu エクスペッションペダルメニュー	32
Specifications	33
MIDI Implementation Chart	34

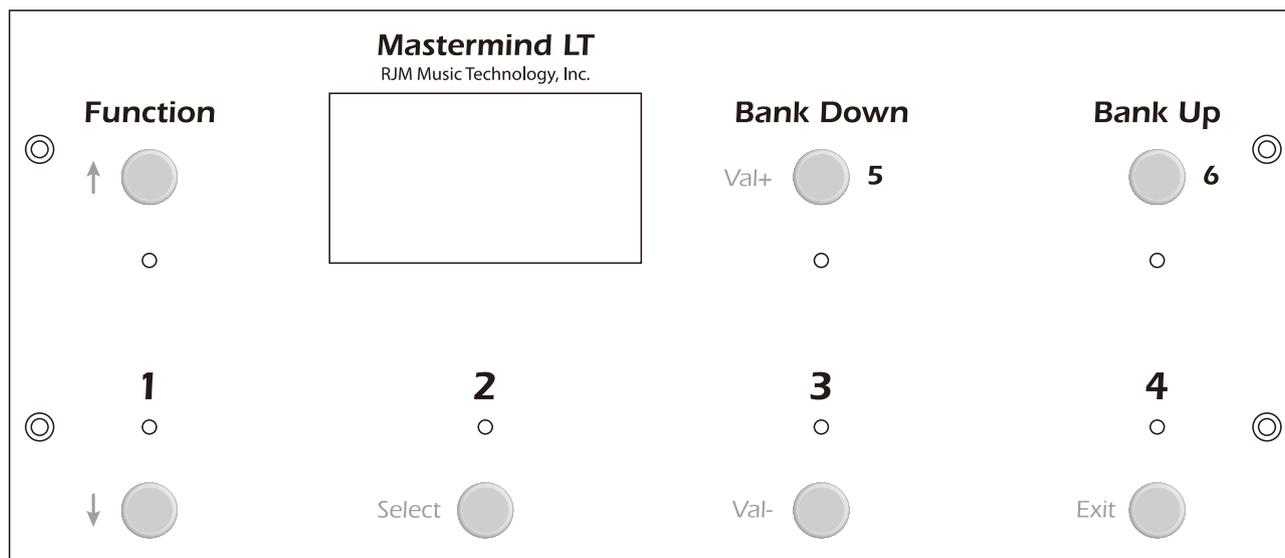
はじめに

RJM Matermind LTをお買い上げ頂きましてありがとうございます。

本製品は、小型ながら非常に強力で柔軟なMIDIコントロールを行うことができるようデザインされました。

- マルチカラーインジケータを備えた7スイッチ
- プリセットその他を表示する大画面ディスプレイ
- 自由度の高いスイッチアサイン
- カスタマイズに対応した最大16ページの切替可能なスイッチ配列
- 768のプリセット 最大16台の接続機器
- ソングモード(最大1008ソング)およびセットリストモード(最大64セットリスト)
- プリセット毎にボタン(スイッチ)ページを割り当てることが可能
- インスタントアクセスにより20の追加MIDIメッセージの送信が可能
- プリセット毎にインスタントアクセスのOn/Off切替が可能
- プリセット毎に全Chへのプログラムチェンジ/バンクメッセージの送信および最大10のジェネラルメッセージの送信
- エクスプレッションペダルの接続
- 全フットスイッチの機能を割り当てることができる2台のエクスターナルスイッチが接続可能
- USB" A "ポートによる外部フラッシュドライブへのバックアップおよびアップデート
- USB" B "ポートによるMac/PCとの接続およびUSBによる給電
- 7pin MIDIケーブルによるファントム電源供給
- ステージでの複数のMastermind LTや他のMIDI機器とのシンクロ機能
- 本体のエディットページにおけるスイッチページの作成およびMIDIメッセージの送信
- Mac/PC用エディタによる包括的かつ高速なエディット

フロントパネル



フロントパネルのコントロール

フロントパネルのスイッチは、モード毎に異なる機能を有します。ここでは各スイッチのオペレーションモードでの主な機能を記載します。モード毎の機能については本マニュアルの該当するモードのセクションをご覧ください。

プリセットスイッチ1-4

現在呼び出しているバンク内の4つのプリセットのうちいずれかを呼び出します。スイッチ1とスイッチ3を長押しするとセットアップモードに移行します。

BANK UP/DOWN (プリセットスイッチ5, 6)

Mastermind LT内に保存できる768個のプリセットは、それぞれ4つのプリセットを格納できるバンクによって管理されており、そのバンクを切り替えるのがこのスイッチです。呼び出したいプリセットの格納されているバンクを呼び出してください。**Song/Setlist**モードでは曲を切り替えるのに使用します。

BANK UP/DOWNスイッチを押すと、プリセットスイッチ1-4が点滅して異なるバンクのどのプリセットを呼び出すかを選択するように促します。いずれかのプリセットスイッチを押して呼び出すプリセットを選択するまで、Mastermind LTはプリセットを切り替えません。

Functionスイッチ

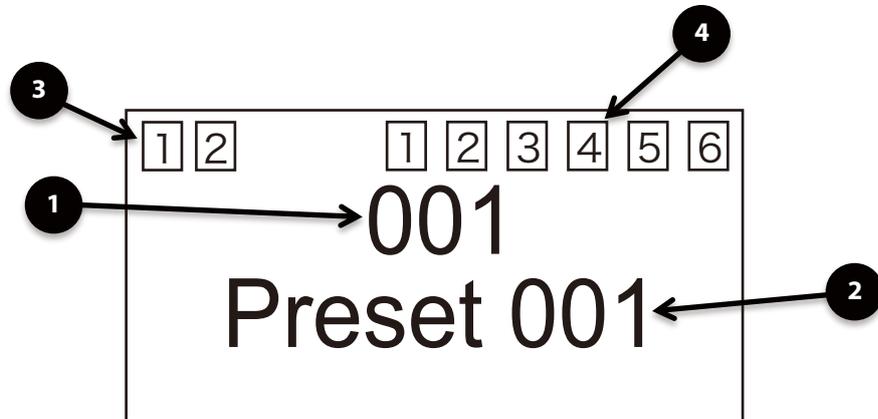
Functionスイッチを押すと、プリセット内のIA(インスタントアクセス)をOn/Offするモードを起動することが可能です。**Function**スイッチを押して[IA/Fn]とディスプレイに表示されている間は、プリセットスイッチ1-4及び**BANK UP/DOWN**スイッチはIA1-6として機能します。もう一度Functionスイッチを押すと通常動作に復帰します。

※本機にはラッチスイッチに用いることのできる同名のファンクションスイッチという機能がありますが、本体に装備された**Function**スイッチとは異なります。混同しないようご注意ください。※

Mastermind Editorを使用すると、スイッチのカスタマイズも可能です。

メインディスプレイ

メインディスプレイには、現在呼び出しているプリセットやソングネーム、IAスイッチのOn/Off状態をはじめとしてMastermind LTの状況が表示されます。白地に黒文字が表示されている場合スイッチはOff, 黒地に白文字の表示はスイッチはOnの状態であることを示しています。



1. プリセットナンバー

現在呼び出しているプリセットナンバーを表示しています。

Song/Setlistモードではソングネームと順に表示されます。

2. プリセットネーム

現在呼び出しているプリセットの名前を表示します。

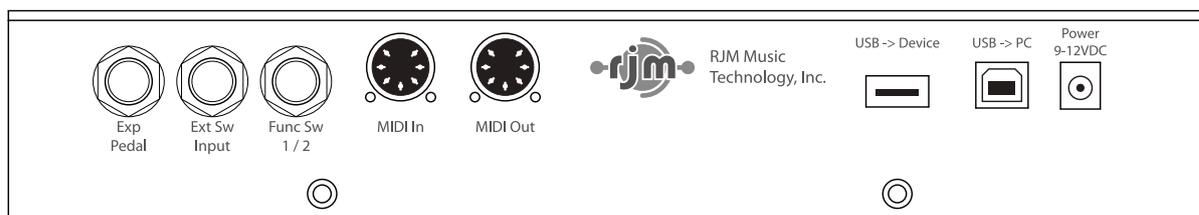
3. ファンクションスイッチインジケータ

ファンクションスイッチ1, 2のOn/Off状況を表示します。

4. IAインジケータ

IAスイッチのOn/Off状況を表示します。

リアパネル



リアパネルの接続端子

Exp Pedal

本機にエクスプレッションペダルを接続する端子です。接続には1/4標準TRSケーブルをご使用ください。エクスプレッションペダルを用いることで、MIDI機器のリアルタイムのコントロールを行うことが可能です。詳しくはExpression Pedalの項をご覧ください。

Ext Sw Input

本機に外部フットスイッチを接続する端子です。シングル or ダブルのフットスイッチに対応しています。接続には1/4標準TRSケーブルをご使用ください。詳しくはExternal Switchの項をご覧ください。

Func Sw 1/2

Mastermind LTはアンプのチャンネルなどを切り替えることのできる2系統のラッチスイッチを内蔵しています。詳しくはファンクションスイッチの項をご覧ください。

USB -> Device

USBフラッシュドライブを接続するための端子です。USBフラッシュドライブを使用することで本機のバックアップを行うほか、ファームウェアのアップデートなどが可能です。

USB -> PC

本機をPC, MacとUSB接続するための端子です。コンピュータに接続すると、本機はMIDIインターフェースとして認識されます。電源供給もコンピュータのUSB端子から行われます。

MIDI In

本機のMIDIインプットです。他の機器からプログラムチェンジデータを受信したり、複数のMastermind LTを用いる場合などに使用します。通常のMIDIデータ通信には5pin MIDIケーブルを接続してください。7pin MIDIケーブルを用いてファントム電源端子としても使用することが可能です。

MIDI Out

本機のMIDIアウトプットです。通常のMIDIデータ通信には5pin MIDIケーブルを接続してください。7pin MIDIケーブルを用いることでファントム電源端子としても使用することが可能です。

Power

本機の電源端子です。本機の動作にはDC9V or DC12V 150mAが必要です。

※ファントム電源で本機に電源供給をする場合には、本端子には何も接続しないでください。接続機器に重大なダメージを与える可能性があります。

PCなどからUSBで給電する場合は本端子と同時に電源を供給しても問題ありません。

基本的な操作

プリセットモード

Mastermind LTに電源を入れると、プリセットとバンクを選択するプリセットモードで起動します。本機の最も通常な動作モードで、1つのバンクに4つのプリセットを格納し、最大768個のプリセットを選択することが可能です。

BANK UP/DOWNスイッチを押すと、プリセットスイッチ1-4が点滅して異なるバンクのどのプリセットを呼び出すかを選択するように促します。いずれかのプリセットスイッチを押して呼び出すプリセットを選択するまで、Mastermind LTはプリセットを切り替えません。

Functionスイッチを押すと、メインディスプレイのページを切り替えることが可能です。ページはそれぞれ異なる機能を持ちますが、デフォルトでは1ページ目(起動画面)はプリセットとバンクを選択するページとIAスイッチのOn/Off状態を表示するページの2ページのみ切り替えることができますようになっています。

IAページ

工場出荷時、起動後の画面から**Function**スイッチを1度押して切り替わるのがIA(インスタントアクセス)ページです。IAとは、プリセットを切り替えることなくMIDI CC(コントロールチェンジ)メッセージを送信する機能を指し、オーディオスイッチャーのループをOn/Offしたり、デジタルエフェクターをリアルタイムで切り替えたりするのに用いられます。工場出荷時、IAページではプリセットスイッチ1-4と**BANK UP/DOWN**スイッチはCC#89-93に割り当てられています。該当するスイッチを押すと、青いLEDが点灯して該当するMIDI CCナンバーがOnになり、再度押すとLEDが消灯してOffに切り替わります。

IAページでは、**BANK UP/DOWN**はファンクションスイッチのOn/Offスイッチとしても機能します。IAページで**BANK DOWN**スイッチを2秒長押しするとFunction 1のOn/Offを、**BANK UP**スイッチを2秒長押しするとFunction 2のOn/Offを切り替えることが可能です。

IAスイッチ、FunctionのOn/Offは常にディスプレイ上部に表示されます。

ページとスイッチの設定はセットアップモードもしくはMastermind Editorでカスタマイズ可能です。

プリセットのストア

Mastermind LTのプリセットは**Function**スイッチを長押しすることでストア(保存)することが可能です。

1. 変更したいプリセットを呼び出します
2. **Function**スイッチを押してIAページを呼び出します
3. フットスイッチ1-4と**BANK UP/DOWN**スイッチ(フットスイッチ5-6)を適宜On/Offします
4. **BANK UP/DOWN**スイッチを長押ししてファンクションスイッチを適宜On/Offします
5. **Function**スイッチを3秒長押しします。

プリセットを呼び出すと、保存されたIAスイッチの状態をリコールし、該当するMIDI CCメッセージを送信し、これによりオーディオループやエフェクトのOn/Offをコントロールすることが可能です。

上記手順を繰り返すこと最大768のプリセットを作成することが可能です。

MIDIとプリセットの設定

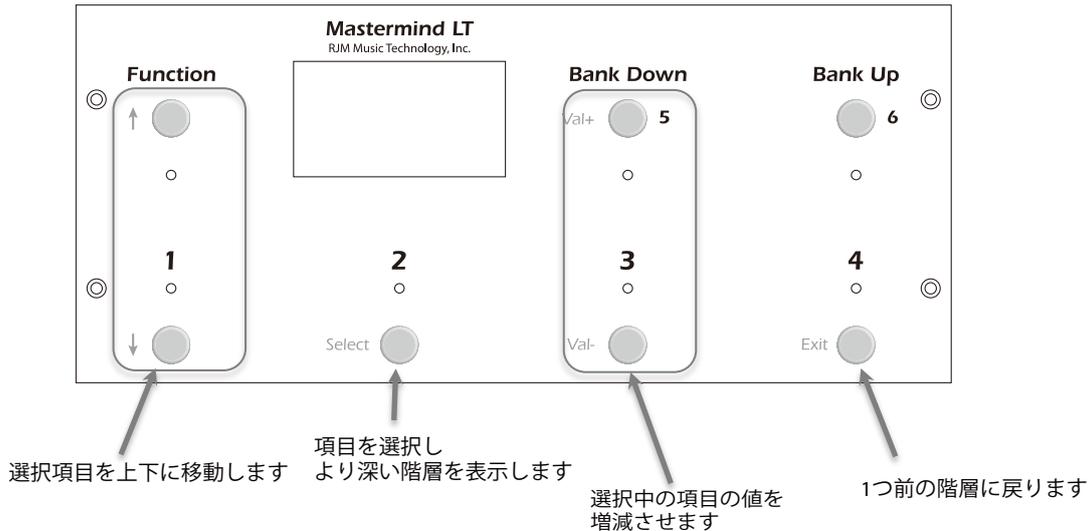
Mastermind LTはプリセット毎に最大16個のCh.にプログラムチェンジを送信するほか、様々なコントロールを行うことが可能です。

セットアップモードの起動

MIDIセッティングのエディットを行うには、セットアップモードを起動する必要があります。

フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動してください。

メインディスプレイにはセットアップメニューが表示されますので、スイッチ横に表記された文字と、下図を参照して操作してください。



デバイスの登録

Mastermind LTでは、MIDIメッセージの混線を避けるため接続機器をデバイスとして登録して管理します。セットアップモードを起動して、↑↓スイッチを用いて**Edit Devices**を選択し、**Select**スイッチを押して奥の階層へ進んでください。

Setup Menu	
Current Pg	1
Set List	None
Edit Devices	
Edit Buttons	
Edit Presets	
Fn Switch Settings	

下記のような画面が表示されるはずですが、工場出荷時には、Mini Effect Gizmoが登録されています。デバイスの登録や内容を変更したいスロットを↑↓スイッチで選択項目を変更して**Select**スイッチで選択してください。

Select a Device	
1: Mini Effect Giz	
2: Empty Slot	
3: Empty Slot	
4: Empty Slot	
5: Empty Slot	
6: Empty Slot	

デバイスを登録したいスロットを選択して**Select**スイッチを押すと、下記のようなEdit Device画面が表示されますので、もう1度**Select**スイッチを押してスロットに登録したいデバイスの詳細を入力しましょう。工場出荷時、スロット1にはMini Effect Gizmoが登録されており、下図は前ページの画面でスロット2を選択した場合の画面です。

Edit Device 2	
Type	???

Mastermind LTには予め、代表的なエフェクトメーカーに適した設定が入力されていますので、表示されたリストに接続するデバイスがある場合は、それを選択することにより、デバイスの名前や最大プリセット数といった最低限のデータのほか、機種によってはエクスプレッションペダルのCCナンバーなどをマニュアルで入力する手間を省くことが可能です。下図はMini Effect Gizmoを選択した場合の画面です。

Edit Device 2	
Type	Mini Effect Giz
Name	Mini Effect Giz
MIDI Ch	1
Port	MIDI Out
Preset Offst	0
Max PC #	127

もしリストに接続するデバイスがない場合は**[Generic]**を選択して、Typeとして**[PC/CC Device]**を選択してください。MIDI Ch.のほか、デバイス毎に様々なMIDI設定のカスタマイズを行うことが可能です。
↑↓スイッチで変更したいパラメータを選択し、Value+, -スイッチでパラメータを変更してください。
 スイッチ上部のLEDが、現在操作することのできるスイッチを表しています。必要な場合は本マニュアルのセットアップモードリファレンスの項で、それぞれの選択項目の意味をご覧ください。

最低限動作させるために必須な設定はMIDI Ch.です。本機と接続するデバイスのMIDI Ch.が合致していないと正確な動作ができません。接続するデバイスのマニュアルでMIDI Ch.の設定方法を確認して、正確なMIDI Ch.設定をしてください。

パラメータの設定が終了したら、**Exit**スイッチを押すとデバイス選択画面へ戻ります。他のデバイスの登録やパラメータ変更を行う場合は上記の操作を繰り返してください。オペレーティングモードに復帰する場合は、さらに2回**Exit**スイッチを押してください。

プリセット毎のプログラムチェンジナンバー設定

Mastermind LTには工場出荷時、デバイススロット1にMIDI Ch.1としてMini Effect Gizmoが登録されており、プリセット1から順にプログラムチェンジナンバーが登録されていますので、接続機器のMIDI Ch.を1に設定すれば、プリセット毎にプログラムチェンジを行うようにプログラムされています。理想的には、誤動作などを避けるためにはデバイス毎に異なるMIDI Ch.を設定するべきであり、前項で登録したデバイスに対しプリセット毎にどのプログラムチェンジナンバーを送信するかを記載します。

フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[Edit Preset]を選択します。

Setup Menu	
Set List	None
Edit Devices	
Edit Buttons	
Edit Presets	
Fn Switch Settings	
MIDI Settings	

プリセットリストが表示されます。

Select a Preset	
Global Preset	
1: Preset 1	
2: Preset 2	
3: Preset 3	
4: Preset 4	
5: Preset 5	

送信するプログラムチェンジナンバーを変更したいプリセットをリストから選択します。プリセット内で変更できる様々なパラメータが表示されます。

Edit Preset 1	
Name	Preset 1
Page	1
Tempo	0
Copy Preset	
Mini Effect Giz	0
- None -	

パラメータリストの末尾に、登録されたデバイスの一覧が表示されますので、送信するプログラムチェンジナンバーを変更したいデバイスを選択して**Select**スイッチを押します。
(工場出荷時、Mini Effect Gizmoが登録されていますので、上図はその画面です)

Edit PC Message	
PC	0
Bank	0

送信したいプログラムチェンジナンバーを**Value+**, -スイッチで選択します。

Bank Upスイッチを押すとパラメータを[None]に変更することが可能で、Noneを選択すると該当するプリセットのデバイスに対してプログラムチェンジを送信しません。バンクセレクト(MSB, LSB)メッセージを用いることで、さらに数多くの音色選択を行うことも可能です。

各デバイスに対して同様の操作を行うことが可能です。

Song/Setlistモード

Mastermind LTには、ライブパフォーマンスなどに有用な、プリセットをソングとセットリストに整理するSong/Setlistモードが備えられています。Song/Setlistモードを用いると、作成したプリセットを任意に並べ替えたSongを作成し、さらに複数のSongを順番に並べ替えたSetlistを作成することが可能です。これにより、例えばライブによって曲順が変わったとしても、Mastermind LT内部のプリセットの順番を変えることなく、簡単にプリセットを切り替えることが可能になります。

Song - ソングとは最大16個のプリセットの集合体です。例えばイントロ、ヴァース、コーラスといったように楽曲の部分毎に異なるプリセットを使用するとして、1つの楽曲で最大16個のプリセットを使用することを想定しています。ベーシックなバックিংなど、同じプリセットを異なるソングで使うことももちろん可能です。

Setlist - セットリストとは、特定のライブなどに向けてソングの順番を並べ替えた、ソングの集合体です。曲の終わりで次のソングを選択するという仕組みです。

Song/Setlistモードでは、Bank Up/Downスイッチはバンクの切り替えではなくソングを切り替えるスイッチとして機能します。Bank Up/Downスイッチでソングを選択し、フットスイッチ1-4でソング内のプリセットを選択します。初期設定ではMastermind LTでは、1ソングに対して4つのプリセットを登録可能です。 Mastermind Editorを用いれば、フットスイッチをプリセット+, -に設定することで、1つのソング内で5個以上のプリセットを使用することも可能です。

ソングのエディット

Songのエディットをするにはまず、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[Edit Songs]**を選択します。**Song**の一覧がリストとして表示されますので、エディットを行いたい**Song**を選択します。Mastermind LTでは最大1008個のソングを管理可能です。

Songを選択すると、ソングネームとテンポに続いてプリセットのリストが表示されます。プリセットが未設定の場合は[-NONE-]が表示されます。任意のスロットを選択すると、プリセットの一覧が表示されますので、**Song**で使用したいプリセットを順に選択してください。

ソングネームとテンポも変更することが可能です。

テンポはMIDI Clockを使用したデバイスやオートタップ機能を搭載したデバイスに送信されますが、テンポを**Song**内で変更することはできません。

セットリストのエディット

全ての**Song**を設定したら、次は**Setlist**の作成です。**Setlist**のエディットをするにはまず、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[Edit Setlists]**を選択します。**Setlist**の一覧がリストとして表示されますので、エディットを行いたい**Setlist**を選択します。1つのセットリストには100個の**Song**を登録することができ、Mastermind LTでは最大64個のセットリストを管理可能です。

エディットしたい**Setlist**を選択すると、セットリストネームに続いてソングのリストが表示されます。**Song**が未設定の場合は[-NONE-]が表示されます。任意のスロットを選択すると、**Song**の一覧が表示されますので、該当する**Setlist**で使用したい**Song**を順に選択してください。

セットリストネームも変更することが可能です。

セットリストモードの起動

全ての**Song**と**Setlist**の設定が終了したら、セットリストモードを起動してみましょう。

Setlistモードを起動するには、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、一番上の項目にある[Set List]**を呼び出したい任意のセットリストナンバーに変更します。

次に**Exit**スイッチを押してセットアップモードを終了すると、選択したナンバーの**Setlist**モードに復帰します。**[All Songs]**を設定した場合、1008個、全ての**Song**を順に切り替えます。

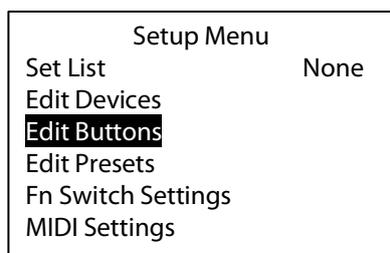
通常の実行モードに復帰するには、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、一番上の項目にある[Set List]**を[-NONE]に変更し、**Exit**スイッチを押してセットアップモードを終了します。

ボタンページのエディット

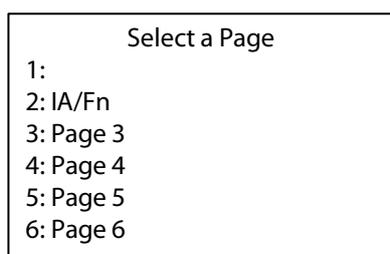
Mastermind LTでは、最大16のボタン(スイッチ)ページを管理することが可能です。ボタンページを切り替えると、フロントパネルのフットスイッチにページ毎に異なる機能を持たせることが可能です。工場出荷時には2つのスイッチページが設定されており、1つめはプリセットとバンク切替、2つめはIAとFunctionのOn/Offに割り当てられています。

ボタンページは**Function**スイッチを押すたびに順に切り替えることが可能です。

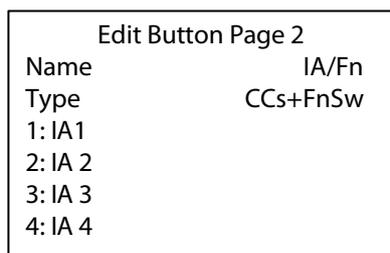
ボタンページを設定するには、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[Edit Buttons]**を選択します。



ボタンページの一覧がリストとして表示されます。



エディットしたいボタンページをリストから選択します。



選択したボタンページのパラメータが表示されます。

ここで設定したページネームは、ページがアクティブになっている際にメインディスプレイに表示されます。何も入力しない場合、メインディスプレイも何も表示しません。(初期設定でページ1がそのようになっています。)

Button Page - ボタンページのタイプ一覧

ボタンページは、**Type**のパラメータを下記から選択することが可能です。

Off - 当該ボタンページを無効にする

Preset - プリセット, バンクの切替(工場出荷時のページ1がこの設定です)

CCs + FnSw - フットスイッチ1-4とBank Up/DownがIAスイッチとして機能し、Functionの切替も行うことができます(工場出荷時のページ2がこの設定です)

CCs - フットスイッチ1-4と**Bank Up/Down**がIAスイッチとして機能します

Device PC - プログラムチェンジ, コントロールチェンジを送信するのに特化したモードです。詳しくは下記のDevice PCの項をご覧ください。

Notes - MIDIノートメッセージを送信するのに特化したモードです。

Mastermind Editorでカスタマイズしたボタンページは**Custom**として表示され、Mastermind LT本体のみではエディットすることができず、上記の一覧からテンプレートを選択して変更することのみ可能です。

Button PageのTypeを選択すると、本当に設定していいか確認が表示されます。

変更する場合は **Yes=Val+** を、変更しない場合は **No=Val-** スイッチを押してください。

ボタンページのタイプを選択すると、リストから当該ページを選択すると、各スイッチの機能をリストから選択して変更することが可能になります。

CCs and CC+FnSwタイプ

[CCs]と**[CCs+FnSw]**タイプは、MIDI CCメッセージを送信するのに特化しています。

それぞれのスイッチが設定されたMIDI CCのOn/Offのほか、任意のCCバリューの送信も可能です。

[CCs+FnSw]タイプでは、それに加えて**Bank Up/Down**スイッチでそれぞれFunction1, 2のOn/Offも行うことが可能です。

[CCs]と**[CCs+FnSw]**タイプでは、各スイッチに下記のパラメータを設定することが可能です。

Name - スイッチの名前です。

Device - CCメッセージを送信するデバイスを選択します。

CC Number - 選択したDeviceに対してどのCCナンバーメッセージを送信するかを設定します。

Off Value - スイッチがOffの際に送信されるCCバリューを選択します。

On Value - スイッチがOnの際に送信されるCCバリューを選択します。

初期設定では、Off Valueは0, On Valueは127に設定されています。

このタイプでは、スイッチがOnになるとLEDが青く点灯します。

Device PCタイプ

[Device PC]タイプは、デバイスにMIDI PC(プログラムチェンジ)メッセージを送信するのに特化しています。このタイプでは、接続されたデバイスにプログラムチェンジの+(上昇), -(下降)によって個別のPCメッセージを送信することができます。また、対応するデバイスでは、デバイスの割り当てられたスイッチを2秒長押しすることでエフェクターをバイパスすることも可能です。再度アクティブにするには該当するスイッチを長押しします。

[Device PC]タイプでは、各スイッチに下記のパラメータを設定することが可能です。

Name - スwitchの名前です。

Device - PCメッセージを送信するデバイスを選択します。

Type - スwitchを押した際にPCナンバーを上昇させるか、下降させるかを選択します。

Bypass Dev - スwitchを長押しした際にどのデバイスをバイパスするかを選択します。通常は、[Device]で選択したPCメッセージを送信するデバイスを選択しますが、エフェクターがオーディオループに接続されていてループのOffに割り当てられる場合などに、異なる数値をデバイスを設定することが考えられます。

[None]を選択した場合、スswitchを長押ししてもバイパス用のCCメッセージが送信されなくなります。

Bypass CC - スwitchを長押しした際にデバイスをバイパスするのに用いるCCナンバーを入力します。

CC Act Value - スwitchをActiveにした際に送信されるCCバリューを選択します。

CC Byp Value - スwitchをBypassにした際に送信されるCCバリューを選択します。

工場出荷時、フットスウィッチ1, 2はデバイス1のPC増減に割り当てられLEDはブルーに点灯するよう設定されています。フットスウィッチ3, 4は同様にデバイス2に割り当てられLEDはグリーンに設定されています。それぞれのスswitchを2秒長押しすると該当するスswitchのLEDは赤く点灯してバイパスされます。再度長押しすると、デバイスはアクティブとなってLEDは元の色に点灯します。バイパスにした際に送信されるMIDI CCナンバーは102に設定されており、これはStrymonのエフェクターでバイパスに設定されているCCナンバーです。接続するデバイスに応じてバイパス時に送信するCCナンバーを変更してください。

Functionスswitchを3秒長押しするとプリセットで保存されたプログラムチェンジナンバーに復帰します。

Notesタイプ

[Notes]タイプは、Mastermind LTで接続されたデバイスに対してノートメッセージを送信することが可能です。スswitchを押すと設定されたノートOnのメッセージが送信され、離すとノートのベロシティが0になります。フットスウィッチにはそれぞれ異なるノートナンバーを設定することが可能です。

[Notes]タイプでは、各スswitchに下記のパラメータを設定することが可能です。

Name - スwitchの名前です。

Device - ノートメッセージを送信するデバイスを選択します。

Note - スwitchを押した際に送信するノートを設定します。

Velocity - スwitchを押した際に送信されるベロシティを設定します。

スswitchを押している間、上部のLEDはイエローに点灯します。

Presetタイプ

[Preset]タイプは最も標準的なボタンページで、フットスウィッチ1-4はプリセットの選択に、**Bank Up/Down**スswitchはバンクの選択に用います。

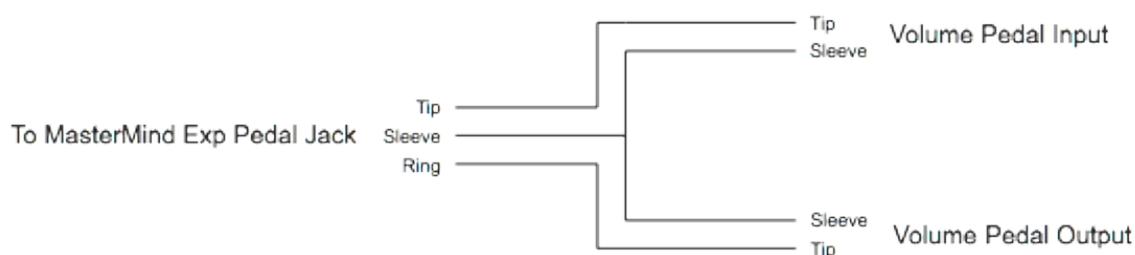
エクスプレッションペダル

Mastermind LTはエクスプレッションペダルを接続することで、MIDI対応エフェクターのボリュームやディレイレベル、モジュレーションのレートなどのパラメータをリアルタイムでコントロールすることが可能です。

セットアップモードでは、エクスプレッションペダルの操作に対応して送信するMIDI CCナンバーのほか、最大限踏み込んだ際に送信するCCバリューの上限や下限を設定することが可能です。初期設定では、Device1にCC#7が設定されています。

流通している多くの一般的な1/4標準TRSジャックを搭載したエクスプレッションペダルを接続することが可能です。Rocktron HexやKorg XVP-10などは本機に対応していますが、BOSS FV-500やRoland EV-5などは正常に動作しません。

Note! もし上記のRoland/BOSS製品のように本機と極性の合わないエクスプレッションペダルをお持ちの場合でも、TipとRingをスワップさせたカスタムケーブルを用いることで本機での使用が可能になることがあります。また、ボリュームペダルしかお持ちでない場合には、下記のようにYケーブルで接続することでエクスプレッションペダルとして使用することが可能です。



エクスプレッションペダルの設定

エクスプレッションペダルの設定を行うには、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[Exp Pedal]を選択します。**

エクスプレッションペダルを接続したら、使用の前に必ずキャリブレーションを行ってください。個体差による誤動作を避けるためにも、使用するエクスプレッションペダルが変わるたびに行うようにしてください。キャリブレーションを行うには、**[Exp Pedal]ページの[Calibrate]を選択してください。**画面表示に従い、エクスプレッションをヒールからトゥまで可動域いっぱい動かして、**Exit**スイッチを押してキャリブレーションを終了してください。

Mastermind LTには、代表的なデジタルエフェクターのMIDI設定があらかじめセットアップしており、該当するエフェクターがデバイスとして登録されている場合は、簡単にエクスプレッションペダルをパラメータにアサインすることが可能です。**(エフェクター側の設定が工場出荷時から変更されている場合は正しく動作しませんので、その場合はマニュアルでCCナンバーなどを設定してください。)**

[Exp Pedal]ページで、**[Device]**にMastermind LT内に予め設定が記憶されているエフェクターが設定されている場合、**[Assign Pedal CC]**を選択すると、エクスプレッションペダルをアサインしたいパラメータの一覧が表示されますので、ペダルでコントロールしたいパラメータを選択してください。パラメータを選択すると、自動的に**[CC Number]**のパラメータに数値が入力されます。

Mastermind LTに登録されていないエフェクターをアサインする場合は、**[CC Number]**を選択して、コントロールしたいパラメータのCCナンバーをValue+/-スイッチで設定してください。

Mastermind LTでは、1つのエクスプレッションペダルに2つまでCCナンバーを登録することが可能です。**[Device 2]**以下のパラメータがそれにあたり、初期設定では動作しないよう**[-None-]**が設定されています。複数台のエフェクターの異なるパラメータを操作したい場合などに活用してください。

エクスプレッションペダルのポジションスイッチの設定

エクスプレッションペダルを特定の位置まで踏み込んだり、戻したりすることでエフェクトをOn/Offする機能がMastermind LTには備えられており、ペダルを戻した際にエフェクトをOffにしたい場合などに有効です。

Mastermind Editorを使わないと本機能を使用することはできません。

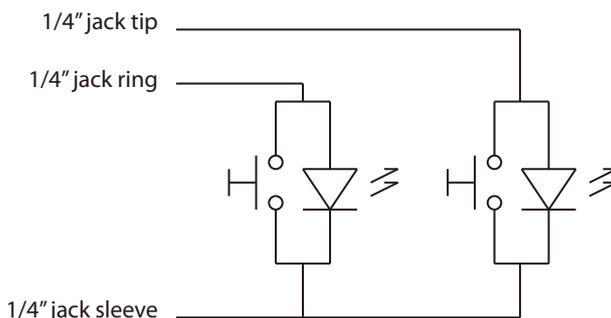
[Invert Switch]をOnにすることで、踏み込んだ際にエフェクトをOffにするよう動作を反転することも可能です。

エクスターナルスイッチについて

Mastermind LTには最大2機のエクスターナルスイッチを接続することが可能です。

エクスターナルスイッチは、本機を離れた場所からコントロールする場合や、タップテンポを行ったり、単純にプリセットスイッチを増やしたり、様々な用途に用いることが可能です。

“Ext Switch”と印字されたジャックがエクスターナルスイッチの接続端子です。TRSケーブルを使用することで2系統のラッチスイッチを接続することが可能です。1つのラッチスイッチを接続する場合でも、誤動作を避けるためにTRSケーブルを使用して接続するようにしてください。**本機に接続することのできるスイッチは、モーメンタリー、もしくはノーマリーオープンです。**LEDが搭載されているスイッチを接続する場合、スイッチと並行してLEDが配置されている場合は本機によりスイッチを点灯させることが可能です。(ホワイト、ブルーのLEDの場合はレッドやグリーンと比べて必要な電流量が多いため正常に点灯しない恐れがあります。)



Mastermind PBC External Switch Wiring Diagram

RJMから本機で正常に動作するデュアルフットスイッチが発売されているほか、Mission Engineering社のエクプレッションペダルであるSP1-RJMにはエクスターナルスイッチとして使用できるLED付きのスイッチが搭載されています。

※エクスターナルスイッチの使用にはMastermind Editorを使用する必要があります。

リモートモード

Mastermind LTをRemoteモードに設定すると、他のMastermind LTと同期して動作するようになります。複数台のMastermind LTをステージなどで使用する場合に活用してください。

RemoteモードでMastermind LTを使用する場合は、MIDI Outジャックともう一方のMIDI In端子を5pin MIDIケーブルで接続して、セットアップモードの[MIDI Setting]ページで[Remote]パラメータをOnにするだけです。3台以上のMastermind LTを使用する場合も、同様に数珠つなぎに接続してください。

Remoteモードでは、複数のMastermind LTは完全に同期して動作します。

※Remoteモードで使用するMastermindは全てまったく同じセッティングにしてください。

※USBフラッシュドライブやコンピュータを用いてデータのコピーを行うようにしてください。

Remoteモードで動作するMastermind LTのディスプレイには矢印が表示されるようになり、相互に送受信していることを表します。

外部MIDIコントロールを使用する

Mastermind LTは外部のMIDIコントローラーやシーケンサー、コンピュータからコントロールすることも可能です。外部から本機を操作するには、セットアップモードの[MIDI Setting]ページ内[MIDI Rx Ch]のパラメータで、接続機器から受信するMIDIチャンネルを設定するだけです。

MIDI Inジャック, USB->PCジャックのどちらでも受信したMIDIメッセージ全てに応じてMastermind LTはプリセット, バンクの切替を行います。

Setlist=None

通常のバンク, プリセット選択を行います。

MSB, LSBとPCメッセージによって下記の式に従い任意のプリセットを呼び出します。

$(\text{Bank MSB} \times 16384) + (\text{Bank LSB} \times 128) + \text{PCナンバー} = \text{プリセットナンバー}$

Mastermind LTの総プリセット数は768個なので、バンク5つまで使用することができます。

そのため、Bank MSBは送信しないか常に0に設定され、LSBは0,1,2のいずれかに設定してください。

Setlist active Bank=Song On

Song/Setlistモードで外部MIDIコントロールを使用する場合は、セットアップモード内[MIDI Setting]ページの[Bank=Song]パラメータをOnにする必要があります。Bank MSB, LSBを使用してセットリスト内のソングを下記の式のように呼び出します。(0=Setlist1のSong1, 1=Setlist1のSong2といったように)

$(\text{Bank MSB} \times 128) + \text{Bank LSB} = \text{ソングナンバー}$

PCナンバーはソング内のどのプリセットを呼び出すかに使用されます。

(0=ソング内のpreset1, 1=ソング内のPreset2…)

Setlist active Bank=Song Off

本機がSong/Setlistモードで起動していて、セットアップモード内[MIDI Setting]ページの[Bank=Song]パラメータがOffの場合、上記のSetlist=Noneの場合と同様の式で最初のSong内のプリセットを呼び出します。

MIDI CCを用いたスイッチコントロール

MIDI Rx Chパラメータが任意の数値に設定されている場合、MIDI CCを用いて外部から本機のファンクションスイッチのOn/Offとボタンページの切替をコントロールすることが可能です。CCナンバーの割り当ては下図の通りですが、カスタマイズすることも可能です。Setup Mode Referenceの項をご覧ください。

Function	CC Number	Values
Function Switch 1 off/on	65	0-63 off, 64-127 on
Function Switch 2 off/on	66	0-63 off, 64-127 on
Page Select	75	0-15 (page number-1)

その他の特徴

ファンクションスイッチ - 本機を使ったアンプのCh.スイッチング -

Mastermind LTは、2系統のラッチスイッチを内蔵しており、アンプのチャンネルスイッチングなどに使用することが可能です。FuncSw1/2ジャックとスイッチジャックをモノラル、もしくはステレオの1/4標準プラグを使用したケーブルで接続してください。

モノラルケーブル - モノラルケーブルを使用すると1系統のラッチを制御することが可能です。

TRSケーブル - ステレオケーブルを使用すると、2系統のラッチを制御することが可能です。

インサート(Y)ケーブル - インサートケーブルは、チャンネルスイッチングに2つ以上のモノラルジャックを用いるアンプのコントロールに使用します。代表的な例はMesa/Boogieです。インサートケーブルを使用する場合でも、Mastermind LTを2台以上のアンプのチャンネルスイッチングには使用しないでください。グラウンドループによるノイズを引き起こす可能性があります。

初期設定では、2系統のスイッチは通常のラッチスイッチとして設定されていますが、セットアップモード内**[Fn Switch Settings]**のページでモーメンタリーやインバートなどの設定を行うことが可能です。

グローバルプリセット

Mastermind LTでは、呼び出しているプリセットのフットスイッチをもう一度押すことで、グローバルプリセットを呼び出すことが可能です。いつでも呼び出すことができるので、よく使う設定をプリセットしておくことで何かトラブルがあったときにも通常のプレイに復帰することが可能になります。

呼び出し中のプリセットスイッチを再度押すとグローバルプリセットを呼び出すように設定するには、セットアップモード内の**[Preset 2nd]**のパラメータを**[Global]**に設定してください。

Mastermind Editorを使用すれば、IAスイッチをグローバルプリセットの呼び出しに設定することも**System/Preset Action**で行うことが可能です。

タップテンポとMIDIクロック

本機はマスターorスレーブのMIDIクロックに対応しています。MIDIクロックを使用すれば、複数の機器を同一のテンポに同期することが可能です。MIDIクロックを使用するには、セットアップモード内の**[MIDI Settings]**ページ内の**[MIDI Clock]**のパラメータを**"None"**(デフォルト)から**"Master"**or**"Slave"**に変更する必要があります。

"Master"に設定すると、本機はUSBポートを含めて全てのMIDI Out端子からMIDIクロックを送信します。テンポはプリセットやソング毎に設定することができるほかタップテンポでも変更することが可能です。プリセット毎のテンポ情報はソングにおけるテンポ情報を上書きしてしまうため、Song/Presetモードでソング毎に設定したテンポを使用する場合は、プリセット内のTempoパラメータは0に設定されている必要があります。プリセット、ソング双方のテンポパラメータが0の場合は、新たに呼び出すパラメータにテンポデータが入力されているまでMIDIクロックを送信しません。

Mastermind Editorを使用すると、スイッチのカスタマイズによりタップテンポスイッチを設定することも可能です。

"Slave"に設定すると、テンポスイッチは外部MIDIクロックに依存して点滅し、外部クロックに応じた信号をMIDI Out端子から送信します。これにより、コンピュータから受信したMIDIクロックをMastermindに接続された他の機器に対して送信することが可能です。

”**Auto**”に設定すると、USB or MIDI inにMIDIクロックを検知しない状態では”**Master**”と同様の動作を行い、MIDIクロックを検知すると”**Slave**”のように入力されたクロックをUSBおよびMIDI Outから出力します。

オートタップ

Mastermind LTは、MIDIクロックによるテンポ情報を受信することのできないアナログタップテンポを搭載したエフェクターに対してもプリセットなどの切り替えに応じたテンポ切り替えを行うことができるようデザインされています。そのためには、Mastermind Editorによるマクロの構築を行う必要があります。マクロを使用することにより、ファンクションスイッチの動作を自動的に行うよう制御することができ、これをもってアナログのタップテンポを制御します。

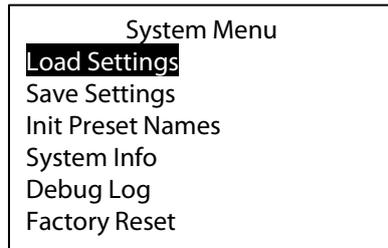
Mastermind Editorで設定したタップテンポのマクロは、本機のセットアップモード内[**Tap Macro**]のパラメータでどのマクロを使用するかを選択し、[**Auto Taps**]のパラメータで何回デバイスに対してマクロを送信するか選択します。プリセットやソングの切替でテンポが変更される度にオートタップを実行します。

USBフラッシュドライブの読み込み、保存

Mastermind LTでは、USBフラッシュドライブを使った設定のセーブ、ロードに対応しています。これによりユーザーは他のMastermind LTにデータを移動したり、コンピュータにデータをバックアップして必要に応じてMastermind LTで読み込むことが可能です。

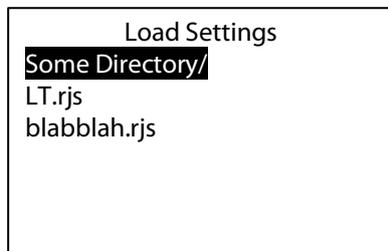
USBフラッシュドライブはリアパネルの本機のUSB -> Device端子に接続してください。

USBフラッシュドライブからデータのセーブ、ロードを行うには、**フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、[System Functions]を選択します。**



USBフラッシュドライブから設定をロードする

System(Functions)ページで**Load Settings**を選択すると、フラッシュドライブ内のファイルが表示されます。本機で開くことのできるファイルの拡張子は **.rjs** です。↑↓スイッチで設定を読み込みたいファイルを選択し、**Select**スイッチを押すとデータのロードが始まります。データのロードをやめる場合は**Exit**スイッチを押してください。ディレクトリを選択すると、ディレクトリ内のファイルが表示されます。



問題なくデータのロードが完了すると、読み込んだ設定で動作を開始します。

USBフラッシュドライブに設定をセーブする

System(Functions)ページで**Save Settings**を選択すると、接続されたUSBフラッシュドライブに設定をセーブを行うことが可能です。セーブの前に、ファイルの名前を設定する画面が表示されますので、任意の名前を入力してください。本機の文字入力についてはセットアップモードリファレンスをご覧ください。

ファイル名の入力が完了したら、画面表示に従って**Yes**スイッチを押すと、接続されたフラッシュドライブの一番上のディレクトリに設定データが保存されます。ファイルの拡張子は**.rjs**です。拡張子はセーブ時に自動的に入力されますので、ユーザーがファイル名を入力する際に含める必要はありません。

※既に同名の設定ファイルがある場合は、上書きされますので注意してください。※

本機とコンピュータとの接続

Mastermind LTでは、USBフラッシュドライブに加え、**USB -> PC**端子でPC, Macと接続することも可能です。本機はUSBクラスコンプライアントに対応したMIDIデバイスですので、専用のドライバなどをインストールする必要はありません。PC, Macに本機をUSBケーブルで接続すると、自動的にMIDIデバイスとして認識されます。

Mastermind LTのUSB端子からMIDIデータを送信させたい場合は、**Edit Device**ページ内の接続デバイスの**MIDI Port**パラメータをUSBに設定してください。**MIDI Port**を選択した場合、設定したデバイスに対して送信される全てのMIDIメッセージが**MIDI Out**端子ではなく**USB -> PC**端子から出力されるようになります。そのため、コンピュータと本機を接続してMIDIデータの送受信を行う場合は、**Type**を**Generic**に、PortをUSBに設定したデバイスとしてコンピュータを設定するのが便利です。

本機は、WindowsではXPを除いたWindows7からWindows10で動作が確認されています。

Mac OSは10.8から10.12で動作が確認されています。これよりも古いシステムでも動作する可能性はありますが、RJM社では現時点で確認がとれておりません。

Mastermind Editor

RJM Music Technology社のウェブサイトにて、Mastermind LTの設定をバックアップするために用いることのできるソフトウェア「The Mastermind Editor」をダウンロードすることが可能です。

Mastermind Editorを用いると、本機のスイッチページやMIDI設定をより複雑にカスタマイズすることが可能です。

ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートについては、RJM Music Technology社ウェブサイトから利用可能です。アップデートの方法は以下の2つの方法があります。

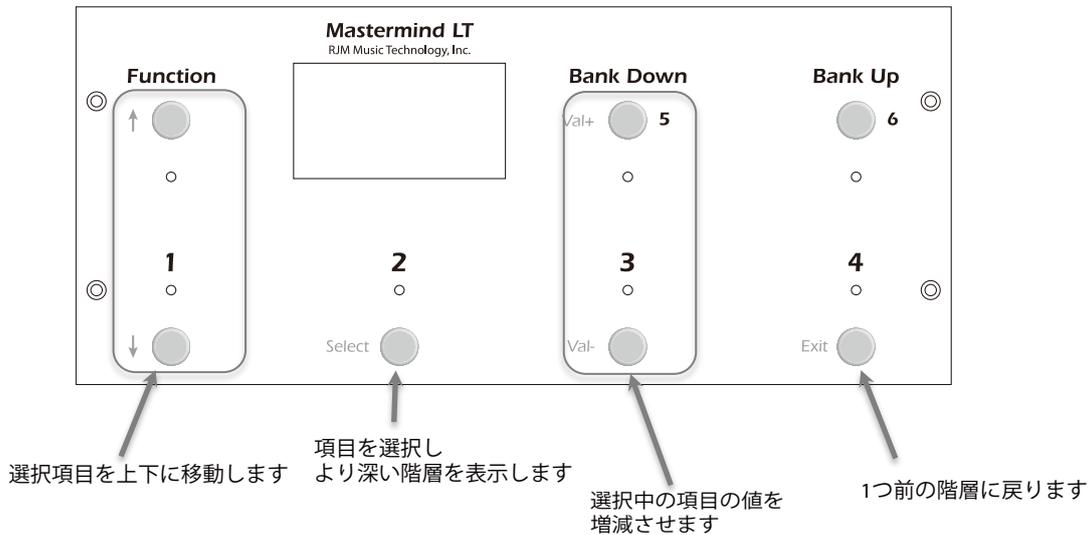
1. フットスイッチ1, 3を3秒間長押ししてセットアップモードを起動し、**[System Functions]**を選択し、**[Update Firmawre]**を選択します。アップデートファイルを保存したUSBフラッシュドライブを本機に接続すると、ドライブ内のファームウェアファイルが表示されますので、任意のファイルを選択するとアップデートが開始します。

2. 本機の電源を切った状態でフットスイッチ1, 3を3秒間長押ししながら電源を入れます。ブートローダーが起動しますので、画面表示に従ってUSBフラッシュドライブを本機に接続してください。本機は自動的に挿入されたドライブからアップデートファイルを探してアップデートを開始します。アップデートが終了すると、オペレーティングモードで再起動します。再起動を確認したらUSBフラッシュドライブを抜いてください。アップデートには1分から2分かかります。

※この方法を使用する場合は、フラッシュドライブには任意のアップデートファイル1つを保存してください。2つ以上のアップデートファイルが保存されていると、意に沿わないアップデートファイルが適用されてしまう可能性があります。※

Setup Mode Reference セットアップモードリファレンス

Mastermind LTを完全にカスタマイズするにはMastermind Editorが必要ですが、主要な操作は本体のみで行えるようにデザインされています。ここではセットアップモード内の全項目の説明を記載します。



セットアップモードの起動にはフットスイッチ1, 3を3秒間長押しします

セットアップモードでは通常のオペレーションモードと異なり、スイッチ左側に印字された機能を有します。上図を参考にしてください。

本機の文字入力時のフットスイッチの働きについて

デバイスの登録やプリセット保存時など、文字入力を行う機会には本機にはいくつかありますが、文字入力時のフットスイッチの機能は下に記す通りになっています。

↑ ↓ : 文字カーソルの左右移動

Value+, - : 入力する文字の変更

Bank Down : カーソル左側の文字を1つ消す

Bank Up : 選択中のカーソルにスペースを挿入する

Mute : 全ての入力中の文字を消去する (Mastermind LTには初期設定されていません)

Exit : 入力した文字を保存して前の画面に戻る

Main Menu メインメニュー

セットアップモードを起動すると表示される画面です。

Set List - Value スイッチでセットリストナンバーを選択することで、任意のセットリストでSong/Setlistモードを起動することが可能です。**[All Songs]**を選択した場合は1008個のソングが順に並んだセットリストを起動することができます。**[-None-]**を選択することで通常のオペレーションモードに復帰します。

Edit Devices - Edit Devicesメニューを呼び出します。

Edit Presets - Edit Presetsメニューを呼び出します。

Edit Buttons - Edit Buttonsメニューを呼び出します。

Fn Switch Settings - ファンクションスイッチセッティングメニューを呼び出します。

MIDI Settings - MIDIセッティングメニューを呼び出します。

System Functions - システムファンクションメニューを呼び出します。

Edit Songs - ソングをエディットするメニューを呼び出します。

Edit Setlist - セットリストをエディットするメニューを呼び出します。

Exp Pedals - エクスプレッションペダルメニューを呼び出します。

Copy Button - スイッチの機能を他のスイッチにコピーすることが可能です。Selectスイッチでコピーを開始すると、どのスイッチの機能をコピーするかをまず選択し、その後コピー先のスイッチを選択します。

Swap Buttons - 2つのスイッチの機能を入れ替えることが可能です。Selectスイッチでスワップを開始すると、機能を入れ替えたいスイッチ2つを選択します。選択を完了するとスワップを完了します。

Function Button - ファームウェアの都合上表示される場合がありますが、本機では使用できません。

Current Pg. - Valueスイッチで数値を設定することで画面表示を確認することが可能です。ページ毎の機能の違いを忘れてしまった場合などに活用してください。

Max Page - ボタン(スイッチ)ページの上限値を設定することが可能です。本機では最大16のスイッチページを設定することが可能ですが、設定されたページ全てを常に使用しない場合に、ここで切り替えることのできるページの上限を設定します。

Preset 2nd - オペレーションモードで呼び出し中のプリセットスイッチを再度押した場合の動作を変更することができます。

- ・ **Same(デフォルト)** - プリセットの切り替えを行いません
- ・ **Previous** - 現在呼び出しているプリセットの前に呼び出していたプリセットを呼び出します
- ・ **Global** - グローバルプリセットを呼び出します
- ・ **Reload** - 同じプリセットを再度呼び出し、IAスイッチやPCをプリセット内で変更していた場合には変更内容を破棄して変更前の状態に戻ります。
- ・ **IA** - スイッチに登録された**IAスイッチのOn/Off**を行い、**MIDIメッセージの送信やその他の働きをします。**
- ・ **Alternate** - 呼び出し中のプリセットに設定されたオルタネイトプリセットを呼び出します。オルタネイトプリセットの設定についてはEdit Presetの項をご覧ください。

AltPrst Color - オルタネイトプリセットを呼び出した際に点灯するLEDの色を選択します。

Start Last Prst - 本機の電源を投入した際に、前回電源を落とした際に呼び出していたプリセットを呼び出すかどうかを選択します。工場出荷時、プリセット1を呼び出すよう設定されています。

1st Prst is 0 - 本機の最初のプリセットナンバーを0にするかを選択します。接続するエフェクターのプリセットナンバーなどと数値を合わせるために用います。ここでは単にプリセットナンバーを変更するのみで、プリセットの名前は変更されない点に留意してください。**System Function**内の**Init Prst Names**でプリセットネームの一括変更が可能です。

Hold mSec - フットスイッチを長押しした際に別の機能を発動するまでに要する時間を設定することができます。初期設定は1200msec(1.2秒)です。

1st Rpt mSec - 自動的にスクロールが始まるまで何秒間長押しするかを設定します。Bank Up/Downスイッチなど、長押しして切り替えるスイッチについて有効です。初期設定は1500msec(1.2秒)です。

Repeat mSec - 自動的なスクロールが高速化するまで何秒間長押しするかを設定します。初期設定は300msec(1.2秒)です。

Bank Scroll mSec - バンクを選択すると、バンク内のプリセットネームが順に表示されてどのプリセットを呼び出すか促しますが、そのプリセットネームの表示速度を変更します。

Auto Page - このパラメータがOnに設定されていると、プリセットを切り替えた際に予めプリセット内で保存されたスイッチページに切り替わります。Offの状態(デフォルト)では、プリセットの切り替えにスイッチページの切り替えは伴いません。

Instant Bank - このパラメータがOnに設定されていると、バンクを選択する際に、選択中のバンクのどのプリセットを呼び出すかを尋ねることなく、現在呼び出しているプリセットスイッチのプリセットを呼び出します。例えば、プリセット2を呼び出している最中にBank Upを押すと直ちにプリセット6を呼び出します。

Auto Taps - テンポが変更された際に、何回オートタップを行うかを選択することが可能です。0に設定されている場合、Auto Tap機能はOffです。

Tap Macro - オートタップにおいてどのタップマクロを動作させるかを選択します。

Show Button Name - このパラメータがOnに設定されていると、プリセットやバンクといった既にディスプレイに表示されているスイッチを除き、スイッチを押した際にスイッチネームをディスプレイに表示します。

Button Name mSec - ボタンネームが表示される時間をmSec単位で設定します。

Show Exp Pedal Pos - このパラメータがOnに設定されていると、メインディスプレイの右端にエクスペディションペダルの踏み具合がバーグラフで表示されます。

Scene Name - このパラメータがOnに設定されていると、プリセットネームの下にシーンネームが表示されるようになります。Song&Setlistモードには影響を及ぼしません。

Show Tempo - このパラメータがOnに設定されていると、テンポチェンジがあった際にディスプレイに表示されます。ごく僅少の(BPM1以下)テンポチェンジは無視されます。

Ignore Prst Tempo - このパラメータがOnに設定されていると、プリセット毎に設定された個別のテンポ設定が無視されます。その他のテンポ設定は有効です。

Calc Tempo Flash - AこのパラメータがOnに設定されていると、本機に入力されたテンポ情報からBPMを検出してディスプレイに表示します。この機能はAxe-FxとKemper Profiling Ampのようにテンポ情報を本機に送信するデバイスと共に使用する場合のみ有効です。

Contrast - ディスプレイのコントラストを調整します。

Device Menu デバイスメニュー

メインメニューでEdit Devicesを選択すると表示される画面です。
スロットを選択してデバイスを登録します。

Type - 選択中のスロットに登録するデバイスのタイプを選択します。代表的なメーカーのエフェクトが登録されていますが、リストに接続機器がない場合はGenericを選択してマニュアルでMIDI設定を行います。

Name - 選択中のデバイスの名前を登録することができます。

MIDI Ch - 選択中のデバイスのMIDI Chを設定します。デバイス側のMIDI Ch.と一致するように設定してください。

Set Default Peldals - デバイスのパラメータ操作によく使うエクスプレッションペダルを設定します。

Get Preset Names - Axe-FxやKemper Profiling Amp(KPA)をデバイスに登録する際に、プリセットネームをデバイスから読み込むかどうかを設定します。

Auto Names - Kemper Profiling Ampのみで使用可能なパラメータです。Kemperがパフォーマンスモードにあるとき、プリセットとrigの名前をリアルタイムで表示します。Mastermind LT側のプリセット、ソングネームは表示されず、もっぱらKPAの情報を表示します。

Sync Names - プリセットを保存する際に、Axe-FxやKPAのプリセットネームを参照します。これにより、接続デバイスとMastermind LTのプリセットネームが合致します。

Direct Send - このパラメータがOffに設定されていると、本機から送信されるPC, CCメッセージは自動的に重複するMIDIメッセージを消去して送信します。送信するデータ量が減りますが、特定の場合にユーザーにとって希望しない動作をすることがあります。Onに設定すると、重複データのチェックを行わずに設定通りダイレクトにMIDIメッセージを送信します。

Port - 選択中のスロットに登録するデバイスについて、MIDI Out, USB, MIDI Inのうち、どの端子で接続するかを選択します。

Preset Offset - 選択中のスロットに登録するデバイスについて、最初のプリセットナンバーを選択します。エフェクターにより0から始まるものと1から始まるものがありますので、Mastermind LT上の表記と合致するように調整することができます。

Max PC# - デバイスが受信することのできるPCナンバーの上限を設定します。MIDIの規格上PCの上限は127ですが、エフェクターによってはこれよりも保存可能なプリセットが少ない場合があります。正しく設定することで対応しないPCメッセージを送信することを回避可能です。バンクに対応したエフェクターの場合、より多くのプリセットを管理できますが、バンク毎のプリセット数が127より少ない場合があります。その場合は、ここで1つのバンクあたりの最大プリセット数を設定します。

Max Preset# - 選択中のスロットに登録するデバイスに保存されているプリセット数を登録します。

Bank Type - 選択中のスロットに登録するデバイスがバンクメッセージに対応している場合、[LSB], [MSB], [MSB:LSB]からどのバンクメッセージに対応しているかを選択してください。バンク切替に対応していない場合は[None]を選択してください。

Flat Numbering - このパラメータは、MIDIバンクセレクトに対応したデバイスのプリセットとバンクをどのように呼び出すかを設定します。Onに設定されている場合、プリセットナンバーのみで任意のプリセットを呼び出すことが可能ですが、Offの場合はPCナンバーとバンクナンバーを設定する必要があります。

Init PCs -None- - 選択中のデバイスについて、全てのプリセットをPCメッセージを送信しないように初期化します。Send PCをOffに設定する場合との違いは、改めてPCナンバーを設定することでプログラムチェンジを送信できるようになる点です。

Init PCs All 0 - 選択中のデバイスについて、全てのプリセットで送信するプログラムチェンジを0に初期化します。

Init Pcs Sequential - 選択中のデバイスについて、全てのプリセットで送信するプログラムチェンジをプリセットナンバーに応じて初期化します。(プリセット#0にはPC#0, プリセット#1にはPC1 and so on)

CC On Preset (Send CC on Preset Change) - Onに設定されていると、Mastermind LTはプリセット変更時に当該デバイスに対してCCを送信します。Offの場合は、プリセット呼び出し後にIAスイッチがOn/Offされた場合に送信します。

Send PC - Onに設定されていると、Mastermind LTは当該デバイスに対してPCメッセージを送信します。Offに設定されていると、PCやバンク関連のいくつかの項目が使用できなくなります。CCのみで動作する接続機器などにご使用ください。

Snd RdunPC (Send Redundant PC) - Offに設定されていると、呼び出し中のプリセットと同一のPCナンバーを送信する操作がされた場合に改めてPCメッセージを送信しなくなります。エフェクターによっては、PCメッセージを受信すると音切れなどを発生する場合がありますが、これを回避することが可能です。Onに設定されている場合は、逐一PCメッセージを送信します。

IgnorePCIn (Ignore Incoming PC) - Onに設定されていると、当該デバイスから送信されるMIDI PCメッセージを無視します。Offの場合、接続機器から受信したPCメッセージにより意図せぬプリセット切替などを生じるおそれがあります。

IgnoreCCIn (Ignore Incoming CC) - Onに設定されていると、当該デバイスから送信されるMIDI CCメッセージを無視します。Offの場合

Poll State - Onに設定されていると、Axe-FxやAxe-Editに加えられた、エフェクトブロックのコントロールに割り当てられているスイッチのOn/Off状態などの変更が自動的に本機にも反映されるようになります。Ignore PC InがOffに設定されている場合は、プリセットチェンジも反映されます。

Delete Device - 選択中のデバイスをスロットから消去します。

Preset Menu プリセットメニュー

メインメニューでEdit Presetsを選択すると表示される画面です。

リストに表示されるプリセットからエディットしたい任意のプリセットを選択してください。

Name - プリセットの名前(プリセットネーム)を設定します。

Page - プリセットが選択された際に表示されるスイッチページを設定します。[Same]を選択した場合、プリセットを呼び出した際のスイッチページが保持されます。

Alt Preset - 呼び出し中のプリセットスイッチを踏んだ際に呼び出すオルタネイトプリセットを設定します。プリセットスイッチを再度踏んだ際の動作についてはメインメニューの**Preset 2nd**で設定します。

Tempo - プリセット内のテンポ(BPM)を設定します。0に設定した場合、プリセット内にBPMが設定されていないこととなります。数値の他に下記のパラメータも選択可能です。

- ・ None - テンポを使用しない
- ・ Same - プリセットを切り替えた際にテンポを変更しない
- ・ Song - 呼び出し中のSongのテンポを使用する

Auto Tap Div - オートタップを使用する際のタップの譜割を設定します。

- ・ Quarter - 4分(初期設定)
- ・ Dot8Th - 付点8分
- ・ QtrTrip - 4分三連
- ・ 8th - 8分
- ・ 8th Trip - 8分三連
- ・ 16th - 16分

MIDI Clk Div - MIDIクロックの譜割の設定です。本機に接続された他のデバイスに影響します。Auto Tap Diviで設定したパラメータのみ設定可能です。

Btn Color - プリセットが選択された際に点灯するフットスイッチ上部のLEDの色を選択します。

Scene Names - Axe-Fx IIIを使用する場合のみ、プリセットネームの他にシーンネームの表示をOn/Offします。

Exp Pedal - Overrideを選択すると、プリセット内でグローバル設定とは異なるエクスプレッションペダルを設定を行うことができます。

Copy Preset - 選択中のプリセットの内容を他のプリセットにコピーします。コピー先のプリセットを選択すると、コピーを実行するかの確認が表示されます。

これより以下には、登録中のデバイスが表示され、選択中のプリセットを呼び出した際に送信するPCナンバーをValue+, -スイッチで入力することができます。プリセットナンバーをデバイス毎に設定して下さい。

Fn Switch Settings ファンクションスイッチセッティング

メインメニューでFn Switch Settingsを選択すると表示される画面です。

ファンクションスイッチの機能を設定することが可能です。エディットしたいスイッチを選択するとパラメータが表示されます。スイッチはそれぞれ、ラッチ、モーメンタリー、ノーマル、インバートを選択可能です。

Fn1 Invert - Fn2 Invert - Onに設定されていると、スイッチがインバートします。(Offの際に回路をグラウンドに落とし、Onの際に回路をオープンします) Offが通常のスイッチの設定です。

Fn1 Momentary - Fn2 Momentary - Onに設定すると、当該スイッチはモーメンタリースwitchとして機能します。スイッチが踏まれると、Mastermind LTはごく短時間スイッチを開閉します。Offに設定すると、ラッチスイッチとして機能します。

Fn1 On Only - Fn2 On Only - モーメンタリー設定と組み合わせて使用することを想定されているパラメータです。Onに設定すると、Onにしたときのみ回路の開閉を行うようになります。特定のアンプのチャンネルスイッチングを正しく行うために使用します。

Momentary mSec - モーメンタリースwitchとして使用する場合に、回路をクローズする時間を設定することができます。初期設定は100mSecです。接続機器によってモーメンタリースwitchを認識する時間が異なりますので、正常に動作しない場合に調整してみてください。

MIDI Settings MIDIセッティング

メインメニューでMIDI Settingsを選択すると表示される画面です。

MIDI Rx Ch - 本機が受信するMIDIメッセージのチャンネル設定です。Noneに設定すると、本機は外部からのMIDIメッセージに反応しなくなります。

Bank=Song - Song/Setlistモードにおいてバンクメッセージをソング切替に用いるかどうかを設定します。

MIDI Bidir - MIDIデータの双方向通信を許可するかを決定します。接続機器によっては1本のMIDIケーブルでデータの送信、受信の双方を行うことが可能なものがあり、そうした機材との連携を考慮して設定してください。なお、**MIDIデータの送受信はMastermind LTと接続する1つめの機器のみで可能です。**

Remote - Onに設定すると、本機はリモートモードで動作します。複数のMastermind LTを同期して使用したい場合に設定します。

MIDI Forward - Onに設定すると、**USB->PC**端子に受信したMIDIメッセージをそのままMIDI Out端子から出力し、**MIDI In**端子に受信したMIDIメッセージを**USB->PC**端子から送信します。本機をMIDIインターフェースとして使用する場合にOnに設定してください。

MIDI Merge - Onに設定すると、**MIDI In** or **USB->PC**端子に受信したMIDIメッセージをそのまま**MIDI Out**端子から出力するようになります。MIDI ForwardがOnの場合は使用できません。

MIDI Clock - 本機をMIDIクロックのマスターとして用いるか、スレーブとして用いるかを設定します。初期設定は"None"であり、MIDIクロックに反応しないよう設定されています。

Clock -> Input - Onに設定すると、MIDI OUT, MIDI In端子双方からMIDIクロックを送信します。MIDI BidirがOnになっていて、MIDI In端子をOutとして使用する特別なケーブルを使用する必要があります。

Start/Stop - Onに設定すると、MIDIクロックを送信する際にMIDIスタートメッセージを送信し、MIDIクロックをOffにした場合にMIDIストップメッセージを送信します。

これより以下には、外部から本機をコントロールする際のCCナンバーが表示されます。コントロールしたい機能に任意のCCナンバーを設定してください。

System Functions Menu システムファンクションメニュー

メインメニューでSystem Functionsを選択すると表示される画面です。

Load Settings - 接続中のUSBフラッシュドライブからデータをロードする場合に選択します。

Save Settings - 接続中のUSBフラッシュドライブからデータをセーブする場合に選択します。

Init Preset Names - プリセットネームを初期化します。初期化時につけられるプリセットネームの番号は、セットアップメニューの**1st Prst is 0**の設定に従います。

System Info - インストールされているファームウェアのバージョン本機のシリアルナンバーを確認することができます。

Debug Log - エラーメッセージが表示されます。

System Test - 本機が正常に動作しているかを確認します。

Update Firmware - ファームウェアアップデートを行う場合に使用します。本マニュアルのファームウェアアップデートの項をご覧ください。

Expression Pedal Menu エクスプレッションペダルメニュー

メインメニューでExp Pedalを選択すると表示される画面です。

ここではエクスプレッション(Exp)ペダルのグローバル設定を行います。プリセットメニューでは、グローバル設定と異なる設定を行うOverrideすることも可能です。

Override - プリセットメニュー内でExpペダルの設定が行われている場合のみ表示されるパラメータです。Onに設定すると、プリセット内のExpペダルの設定が有効になります。

Name - Expペダルに名前をつけることが可能です。

SndOnPrst - プリセットを呼び出した際に現在のExpペダルの位置に応じたMIDI CCメッセージを送信するかどうかを設定します。このパラメータはグローバル設定でしか表示されません。

Calibrate - 選択すると接続中のExpペダルのキャリブレーション(最適化)を行います。可動域いっぱいまでペダルを動かしたら、**Exit**スイッチを押してキャリブレーションを終了します。

Device - 選択すると表示されるリストの中からExpペダルでコントロールしたいデバイスを設定します。

CC Number - Expペダルの操作により送信するMIDI CCナンバーを設定します。

Min Val - Expペダルをヒール側に最大限戻した際に送信するCCバリューを設定します。

Max Val - Expペダルをトゥ側に最大限踏み込んだ際に送信するCCバリューを設定します。

Assign Pedal CC - 本機は代表的なエフェクターのMIDI設定が予め入力されており、デバイスに登録されている場合、ここからコントロールしたいパラメータを選択してCCナンバーを設定することが可能です。エフェクター側のマニュアルを参照する必要がなく便利ですが、エフェクター側で設定が変更されている場合正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

Device2, CC Number2, Min Val2, Max Val2, Assign2 - Expペダルで同時に2つのパラメータをコントロールする場合に使用するパラメータです。パラメータの内容は上記の1つ目と同様です。

Set Switch - Expペダルを踏み込んだ際にスイッチをOnにするペダルの位置を設定します。

Invert - Expスイッチを踏むことによりOnになるスイッチのOn/Offをインバートします。

Specifications

寸法	11.5(W) x 5.0(D) x 2.75(H) Inches 29.2(W) x 12.7(D) x 7.0(H) cm
重量	1.9 lbs 0.86 kg
電源	9VDC or 12VDC 200mA 5.5mm OD, 2.1mm ID x 9.5mm barrelコネクター 極性は問いません

MIDI Implementation Chart

MIDI Implementation Chart v 2.0 (Page 1 of 3)			
Manufacturer: RJM Music Technology, Inc. Model: Mastermind LT Version: 1 Date: February 17, 2018			
	Transmit/Export	Recognize/Import	Remarks
<i>1. Basic Information</i>			
MIDI Channels	1-16	1-16	Channel 1 is set by default
Note Numbers	Yes	No	
Program change	Yes	Yes	
Bank Select Response? (Yes/No) If yes, list banks utilized in remarks column	Yes	Yes	Sends any bank number Uses bank MSB and LSB, banks 0-2
Modes supported :			
Mode 1: Omni-On, Poly (Yes/No)	No	No	
Mode 2: Omni-On, Mono (Yes/No)	No	No	
Mode 3: Omni-Off, Poly (Yes/No)	Yes	Yes	
Mode 4: Omni-Off, Mono (Yes/No)	Yes	Yes	
Multi Mode (Yes/No)	No	No	
Note-On Velocity (Yes/No)	Yes	No	
Note-Off Velocity (Yes/No)	Yes	No	
Channel Aftertouch (Yes/No)	No	No	
Poly (Key) Aftertouch (Yes/No)	No	No	
Pitch Bend (Yes/No)	No	No	
Active Sensing (Yes/No)	No	No	
System Reset (Yes/No)	No	No	
Tune Request (Yes/No)	No	No	
Universal System Exclusive:			
Sample Dump Standard (Yes/No)	No	No	
Device Inquiry (Yes/No)	No	No	
File Dump (Yes/No)	No	No	
MIDI Tuning (Yes/No)	No	No	
Master Volume (Yes/No)	No	No	
Master Balance (Yes/No)	No	No	
Notation Information (Yes/No)	No	No	
Turn GM1 System On (Yes/No)	No	No	
Turn GM2 System On (Yes/No)	No	No	
Turn GM System Off (Yes/No)	No	No	
DLS-1 (Yes/No)	No	No	
File Reference (Yes/No)	No	No	
Controller Destination (Yes/No)	No	No	
Key-based Instrument Ctrl (Yes/No)	No	No	
Master Fine/Coarse Tune (Yes/No)	No	No	
Other Universal System Exclusive	No	No	
Manufacturer or Non-Commercial System Exclusive	Yes	Yes	RJM Music Technology, Inc. Manuf. ID: 00 01 5B
NRPNS (Yes/No)	No	No	
RPN 00 (Pitch Bend Sensitivity) (Yes/No)	No	No	
RPN 01 (Channel Fine Tune) (Yes/No)	No	No	
RPN 02 (Channel Coarse Tune) (Yes/No)	No	No	
RPN 03 (Tuning Program Select) (Yes/No)	No	No	
RPN 04 (Tuning Bank Select) (Yes/No)	No	No	
RPN 05 (Modulation Depth Range) (Yes/No)	No	No	
<i>2. MIDI Timing and Synchronization</i>			
MIDI Clock (Yes/No)	No	No	
Song Position Pointer (Yes/No)	No	No	
Song Select (Yes/No)			
Start (Yes/No)	No	No	
Continue (Yes/No)	No	No	
Stop (Yes/No)	No	No	
MIDI Time Code (Yes/No)	No	No	
MIDI Machine Control (Yes/No)	No	No	
MIDI Show Control (Yes/No) If yes, MSC Level supported	No	No	
<i>3. Extensions Compatibility</i>			
General MIDI compatible? (Level(s)/No)	No	No	
Is GM default power-up mode? (Level/No)	No	No	
DLS compatible? (Levels(s)/No)	No	No	
(DLS File Type(s)/No)	No	No	
Standard MIDI Files (Type(s)/No)	No	No	
XMF Files (Type(s)/No)	No	No	
SP-MIDI compatible? (Yes/No)	No	No	

MIDI Implementation Chart v 2.0 (Page 2 of 3)				
Manufacturer: RJM Music Technology, Inc. Model: Mastermind LT Version: 1 Date: February 17, 2018				
Control #	Function	Transmitted (Y/N)	Recognized (Y/N)	Remarks
0	Bank Select (MSB)	Y	Y	
1	Modulation Wheel (MSB)	Y	N	
2	Breath Controller (MSB)	Y	N	
3		Y	N	
4	Foot Controller (MSB)	Y	N	
5	Portamento Time (MSB)	Y	N	
6	Data Entry (MSB)	Y	N	
7	Channel Volume (MSB)	Y	N	Exp pedal default
8	Balance (MSB)	Y	N	
9		Y	N	
10	Pan (MSB)	Y	N	
11	Expression (MSB)	Y	N	
12	Effect Control 1 (MSB)	Y	N	
13	Effect Control 2 (MSB)	Y	N	
14		Y	N	
15		Y	N	
16	General Purpose Controller 1 (MSB)	Y	N	
17	General Purpose Controller 2 (MSB)	Y	N	
18	General Purpose Controller 3 (MSB)	Y	N	
19	General Purpose Controller 4 (MSB)	Y	N	
20		Y	N	
21		Y	N	
22		Y	N	
23		Y	N	
24		Y	N	
25		Y	N	
26		Y	N	
27		Y	N	
28		Y	N	
29		Y	N	
30		Y	N	
31		Y	N	
32	Bank Select (LSB)	Y	Y	
33	Modulation Wheel (LSB)	Y	N	
34	Breath Controller (LSB)	Y	N	
35		Y	N	
36	Foot Controller (LSB)	Y	N	
37	Portamento Time (LSB)	Y	N	
38	Data Entry (LSB)	Y	N	
39	Channel Volume (LSB)	Y	N	
40	Balance (LSB)	Y	N	
41		Y	N	
42	Pan (LSB)	Y	N	
43	Expression (LSB)	Y	N	
44	Effect Control 1 (LSB)	Y	N	
45	Effect Control 2 (LSB)	Y	N	
46		Y	N	
47		Y	N	
48	General Purpose Controller 1 (LSB)	Y	N	
49	General Purpose Controller 2 (LSB)	Y	N	
50	General Purpose Controller 3 (LSB)	Y	N	
51	General Purpose Controller 4 (LSB)	Y	N	
52		Y	N	
53		Y	N	
54		Y	N	
55		Y	N	
56		Y	N	
57		Y	N	
58		Y	N	
59		Y	N	
60		Y	N	
61		Y	N	
62		Y	N	
63		Y	N	

MIDI Implementation Chart v 1.0 (Page 3 of 3)				
Manufacturer: RJM Music Technology, Inc. Model: Mastermind LT Version: 1 Date: February 17, 2018				
Control #	Function	Transmitted (Y/N)	Recognized (Y/N)	Remarks
64	Sustain Pedal	Y	N	
65	Portamento On/Off	Y	Y	Fn Switch 1 on/off (dflt)
66	Sostenuto	Y	Y	Fn Switch 2 on/off (dflt)
67	Soft Pedal	Y	N	
68	Legato Footswitch	Y	N	
69	Hold 2	Y	N	
70	Sound Controller 1 (default: Sound Variation)	Y	N	
71	Sound Controller 2 (default: Timbre / Harmonic Quality)	Y	N	
72	Sound Controller 3 (default: Release Time)	Y	N	
73	Sound Controller 4 (default: Attack Time)	Y	N	
74	Sound Controller 5 (default: Brightness)	Y	N	
75	Sound Controller 6 (GM2 default: Decay Time)	Y	Y	Page select (default)
76	Sound Controller 7 (GM2 default: Vibrato Rate)	Y	N	
77	Sound Controller 8 (GM2 default: Vibrato Depth)	Y	N	
78	Sound Controller 9 (GM2 default: Vibrato Delay)	Y	N	
79	Sound Controller 10 (GM2 default: Undefined)	Y	N	
80	General Purpose Controller 5	Y	N	
81	General Purpose Controller 6	Y	N	
82	General Purpose Controller 7	Y	N	
83	General Purpose Controller 8	Y	N	
84	Portamento Control	Y	N	
85		Y	N	
86		Y	N	
87		Y	N	
88		Y	N	
89		Y	N	
90		Y	N	
91	Effects 1 Depth (default: Reverb Send)	Y	N	
92	Effects 2 Depth (default: Tremolo Depth)	Y	N	
93	Effects 3 Depth (default: Chorus Send)	Y	N	
94	Effects 4 Depth (default: Celeste [Detune] Depth)	Y	N	
95	Effects 5 Depth (default: Phaser Depth)	Y	N	
96	Data Increment	Y	N	
97	Data Decrement	Y	N	
98	Non-Registered Parameter Number (LSB)	Y	N	
99	Non-Registered Parameter Number(MSB)	Y	N	
100	Registered Parameter Number (LSB)	Y	N	
101	Registered Parameter Number(MSB)	Y	N	
102		Y	N	
103		Y	N	
104		Y	N	
105		Y	N	
106		Y	N	
107		Y	N	
108		Y	N	
109		Y	N	
110		Y	N	
111		Y	N	
112		Y	N	
113		Y	N	
114		Y	N	
115		Y	N	
116		Y	N	
117		Y	N	
118		Y	N	
119		Y	N	
120	All Sound Off	Y	N	
121	Reset All Controllers	Y	N	
122	Local Control On/Off	Y	N	
123	All Notes Off	Y	N	
124	Omni Mode Off	Y	N	
125	Omni Mode On	Y	N	
126	Poly Mode Off	Y	N	
127	Poly Mode On	Y	N	